

○議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に進行いたします。蒲郡市政クラブ代表、新実祥悟議員。

◆新実祥悟議員 議長の許可をいただきましたので、蒲郡市政クラブの代表質問をさせていただきます。

早速ですが、大きい1番、予算大綱についてお願いいたします。

(1) 三河港港湾計画改訂の状況についてでございます。

初めに、三河港港湾計画改訂の概要、進捗状況、市の要望事項はどのようになっているのか、お尋ねいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 港湾計画は、港湾法に基づく法定計画であり、その港湾に関わる全ての関係者が、開発、利用及び保全を行う上での基本的事項を定めた計画となります。これまでに、三河港港湾計画は、昭和39年に最初の計画が策定されてからおおむね10年ごとに5回の改訂が行われ、前は平成23年度に改訂されました。

現在の進捗状況といたしましては、令和2年1月に愛知県が三河港港湾計画検討委員会を立ち上げて、令和2年度に20年から30年先の三河港の将来像を取りまとめた長期構想(案)の作成を行い、その後、長期構想(案)についてパブリックコメントを行う予定となっております。

令和3年度には、長期構想を踏まえて、10年から15年後の港湾施設及び土地利用計画の検討などを行い、港湾計画(素案)を作成いたします。令和4年度に最終の港湾計画(案)の取りまとめを行い、国土交通大臣への提出及び審査が予定されております。

市といたしましても、11号岸壁の整備をはじめ、現港湾計画にある使用されていない貯木場などの埋立てによる用地確保、航路が狭いため風速による入港制限が生じる航路の拡幅、東港地区における土地利用計画の見直しなど、蒲郡市のさらなる発展に向けた港湾計画改訂となるように要望しているところでございます。

以上です。

◆新実祥悟議員 ただいまの御答弁にありましたように、市の貯木場というのは非常に大きな土地だということに思っていて、それが埋められることによって多くの企業用地というのが生み出される。蒲郡市で行きますと、ほとんど山ばかりで、本当に企業を呼ぶにもそうした用地が確保できないという現状の中で、ぜひ、この港湾計画を改訂する中にこの埋立てというのを入れていっていただくよう強く働きかけていただきたいと、このように思います。よろしく申し上げます。

では、先ほどの御答弁の中にありましたが、現状の計画の中に11号岸壁の埋立てというのがございますが、この今の状況というのはどのようになっているか、お尋ねいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 蒲郡ふ頭11号岸壁は、これまでに岸壁延長350メートルが供用されておりますが、現在の工事の状況といたしましては、さらに30メートルの延伸工事を鋭意施工中と伺っております。

令和3年3月定例会

代表質問

また、施工中でした背後地の埋立箇所につきましては、令和2年10月に約1.8ヘクタールが供用開始され、残り約1.8ヘクタールについては、令和3年度にアスファルト舗装工事が完了する予定と愛知県から伺っております。

加えまして、100メートルの岸壁延伸部分の背後につきましても、愛知県により本年度に埋立ての設計業務が委託されており、今後、岸壁背後の埋立て工事が計画されているとのことでございます。

◆新実祥悟議員 ありがとうございます。

この三河港港湾計画の中には、東港の開発についても入っているということなのですが、この件については後ほど、これだけでお尋ねいたします。

今回、(2)として道路建設についてお尋ねするわけなのですが、道路と産業というのは非常に重要だということで、リンクしていると思っております、それを基にしてこのように質問を並べさせていただきました。最後は少し私の思いも述べさせていただこうと思いますが、まず質問をさせていただこうというように思います。

まず、アとして国の直轄事業についてです。

国の直轄事業である国道23号蒲郡バイパスの事業内容及び進捗状況と、名浜道路の概要と現在の状況についてお伺いいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 国道23号蒲郡バイパスは、豊川為当インターチェンジから幸田芦谷インターチェンジまでの延長15キロメートルで、そのうち未開通区間は、豊川為当インターチェンジから蒲郡インターチェンジまでの東部区間、延長9.1キロメートルとなります。

今年度の状況でございますが、当初予算で72億4,000万円、補正予算で14億円、合計で86億4,000万円の予算を確保していただき、豊川為当インターチェンジから蒲郡インターチェンジの区間で、大規模な切土、盛土による道路築造工事を全面展開していただいております。

続きまして、名浜道路についてでございますが、常滑市から蒲郡市までの概略延長約40キロメートルの地域高規格道路で、中部国際空港と衣浦港、三河港とのアクセス性を高める大変重要な道路でございます。昨年度末には、愛知県と名浜道路推進協議会、名浜道路推進経済連合会で具体的な現道活用ルートと優先整備区間などを含めた名浜道路の段階的な整備方針について合意形成が図られたところであります。

このため、今年度の名浜道路推進協議会と名浜道路推進経済連合会による、国土交通省中部地方整備局と愛知県への要望活動においては、合意形成の内容を踏まえ、要望を実施しており、愛知県では一般県道幸田幡豆線の線形改良に向けた調査設計が着手されたところでございます。

以上です。

◆新実祥悟議員 国道23号蒲郡バイパスの案件につきましては、何度も伺っておりますので結構でございますが、着々と進んでいくことを期待しております。

ところで、名浜道路については、残念ながら、当初の要望が高規格道路で、空港から浜松に向かっていくというような話だったのですが、少し様子が変わってきて、一般道を拡幅するなど、それをうまく利用するというような方向になったというような御答弁を頂きました。

実際には現実に合わせた道路事業というのもあるのかなというように思いますが、今後、どのようになっていくのか様子を注視してまいりたいというように思います。

それでは、次にイとして県事業についてお尋ねいたします。

蒲郡市内における、愛知県が実施する事業をまず伺います。

◎鈴木伸尚建設部長 現在、愛知県に実施していただいている事業は、三谷町の国道23号歩道整備事業でございます。三谷町小迫交差点西側から二舗交差点までの400メートルの区間について、交通安全対策を目的として、平成20年度から事業着手していただいております。

現在の残事業としましては、用地買収が1件、工事区間が150メートルであるというように聞いております。

以上です。

◆新実祥悟議員 この三谷町の案件、地元の方はもちろん、私らも時々通るに当たって、道が狭くて早く広くなれないかなというところで期待しているところです。これもぜひ早く終わるようにお願いしたいと思います。

それでは、現在進んでいる事業というところとそれほど多くないわけなのですが、そうした中で、イとして要望案件について伺いますが、蒲郡市が愛知県に対して事業実施を要望している路線はどの程度あるのか、お尋ねいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 今年度、愛知県に要望している道路事業としましては、重点要望項目として都市計画道路大塚金野線、臨港道路海陽3号線、一般国道247号鹿島バイパスの4車線化の3路線でございます。

一般要望項目といたしまして、一般国道247号中央バイパスの4車線化、一般国道473号、都市計画道路竹谷柏原線の3路線の合計6路線でございます。

以上です。

◆新実祥悟議員 要望するに当たっても、重要度に合わせてランク分けして要望しているといった御答弁でした。

そうした中で、ウとして事業化の可能性についてお尋ねいたします。

まず、小さいaで、国道473号バイパスについてです。

この道路については、ずっと、かなり以前から要望しているところなのですが、絵も描かれていないというような状況の中で、事業化の可能性についてはどのようか、お尋ねいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 答弁が稲吉議員の答弁と少し重なりますが、一般国道473号は、愛知県への要望路線の1つでございます。蒲郡市竹島町地内の国道23号を起点とし、岡崎

市、豊田市などの三河山間部を経由して静岡県牧之原市の国道150号に至る延長約260キロメートルの幹線道路でございます。

蒲郡市内の状況といたしましては、岡崎市へ向かう山間部の区間におきまして、道路幅員が狭い上にカーブも多く、特に昭和8年に完成いたしました延長約470メートルの鉢地坂トンネルは老朽化が進んでいる状況でございます。

蒲郡市といたしましては、新東名の岡崎東インターチェンジへのアクセスとなる大変重要な路線であると認識しており、これまでも沿線自治体である岡崎市、豊田市と一緒にあって愛知県に要望してまいりました。

まずは、蒲郡市から国道1号までのバイパス計画のルートを考えていただけるよう、引き続き愛知県に要望してまいります。

以上です。

◆新実祥悟議員 重ねての御答弁ありがとうございます。それほど求められている道路だということで御認識いただければと思います。

次に小さいbとして、竹谷柏原線についてです。

都市計画道路竹谷柏原線の事業化の可能性についてお尋ねいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 都市計画道路竹谷柏原線も、愛知県への要望路線の1つでございます。国道23号蒲郡バイパスの蒲郡西インターチェンジへのアクセスとして非常に重要な路線と考えております。

現在、蒲郡西インターチェンジから南側の都市計画道路柏原線までの区間を暫定2車線で供用しておりますが、その南側に新幹線を上越する箇所があり、橋梁の築造に多くの費用を要することが想定されております。

愛知県に要望するほかの路線につきましても、トンネルを含むなど事業費のかかる路線が多い中で、市内全体の交通の流れや費用対効果を踏まえた上で、優先順位を考えながら、引き続き愛知県に要望してまいりたいと考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 それでは、小さいcとして、県道三ヶ根停車場拾石線の拡幅について伺うわけですが、これも事業化の可能性についてお願いいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 県道三ヶ根停車場拾石線は、JR三ヶ根駅を起点とし、国道247号を終点とする一般県道でございます。蒲郡市内につきましては、昭和54年に蒲郡拾石土地区画整理事業と旧国道247号との交差点改良で、蒲郡市内の延長710メートルのうち240メートルが整備されております。

未整備の区間につきましては、これまでに拾石町地区より当路線の拡幅の要望が提出され、意見交換会、地元説明会などが行われ、平成23年度には現地調査を行っていただきましたが、用地取得の見通しが立たず、事業を中断した経緯がございます。

直近では、昨年度から今年度にかけて地元から再度整備の御要望もいただいているところであり、蒲郡市としましては、通学路も含まれることから、地元の皆様の事業協力の意向も踏まえながら、整備手法について愛知県と調整してまいりたいと考えております。

また、愛知県からは、沿道住民の同意を踏まえた要望が必要と聞いております。

以上です。

◆新実祥悟議員 この道路は、交通安全という観点から非常に重要な道路だというように思っております。子供たちが狭い道路、歩道のないようなところを通学路として利用しているという実態がありまして、それを解消するためにもこの道路がどうしても欲しいということで、地元の強い要望だというように承知しております。

今般、市に要望を出された中には、おおむね関係地権者の方の了解を頂いているというように伺っているわけですが、まだ県には要望を出されてないということです。そうした場合には、一緒に行っていただいて、話がうまくまとまるような形でやっていただければありがたいなというように思います。

この質問までは、県の案件でした。これから少し市の案件についてお尋ねいたします。

ウとして、市道についてです。

(ア) 事業内容とそれぞれの進捗状況について伺うわけなのですが、aとして、蒲郡環状線などについてということで、新設道路についての御答弁をお願いいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 市道の道路新設事業として、来年度4路線を上げさせていただいております。このうち3路線は、これまでの継続路線となっております。

まず、1路線目は、都市計画道路蒲郡環状線の6工区としております市道五井西郷橋詰1号線でございます。この路線は、中部土地区画整理事業の東側の地区界から五井町民会館西側までの区間、延長490メートル、幅員12メートルの路線で、3月1日現在の用地買収率は75%でございます。

2路線目は、同じく都市計画道路蒲郡環状線の7工区としております市道国京宮間2号線でございます。この路線は、西部小学校南側を東西に通る、延長360メートル、幅員12メートルの路線で、3月1日現在の用地買収率は93%でございます。

3路線目は、鹿島町地内で国道247号鹿島バイパスから大型商業施設の周回道路を経由し、旧国道を結ぶ路線として計画している、(仮称)市道宮ノ要浜田1号線でございます。今年度は、路線のルートを検討するための道路概略設計及び道路予備設計を実施させていただきました。来年度は、道路詳細設計を実施する予定でございます。

最後に4路線目でございますが、愛知県において都市計画道路大塚金野線の事業化に向けた検討を行っていただいておりますが、その検討の中で、既存の踏切廃止に伴う代替路線が必要となり、その代替路線として(仮称)市道上向山広畑1号線を計画しております。来年度はルートの検討を行う道路概略設計を実施する予定でございます。

以上です。

◆新実祥悟議員 ただいま御答弁がありました案件ですが、bとして、(仮称)市道宮ノ要浜田1号線についてお尋ねします。

新設市道4路線のうちの、この(仮称)市道宮ノ要浜田1号線については、今年度は路線のルートを検討するための道路概略設計と道路予備設計を実施したとお話しされました。検討された路線のルートについて、地元への説明はどのように行っていく予定か、伺います。

◎鈴木伸尚建設部長 今年度は、道路概略設計と道路予備設計を実施し、路線のルートを検討する作業まで進んでおります。

来年度には道路詳細設計を実施する予定となっておりますので、詳細な図面が出来上がった段階で、地元の方への説明を行っていきたいというように考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 今回、この質問の中で、道路の案件をざっと取り上げさせていただきました。多くが県に要望する道路ということで、今質問させていただいただけではなくて、西浦にはまだ手つかずになって途中で止まっている道路といったものもあるわけですし、そういったものもやってはいただきたいというように思っているのですが、やはり今の御答弁のあった中に、県も非常に多くの仕事を抱えていて、蒲郡市が要望しても全てその要望に応えることできない状況だというのは、これはもう十分理解できるころなのです。

そうであるならということなのですが、蒲郡市は蒲郡市をよくしようと思うのであるなら、蒲郡市自らがやはりどこまでこの事業、道路をやっていけるかということも考えるべきではないかなというように思うのです。

例えば、先ほどお尋ねしました国道473号のバイパスの案件は、実際には蒲郡市でやれと言っても、これは大変な仕事で、トンネルは作らないといけない、非常に長くて高い橋脚は作らなければいけない、とても、何百億円もかかるような案件、蒲郡市がどれだけ背伸びしてもできる案件ではありません。こういう案件については、やはり県とか国とかにお願いしてやっていただくというのは、これは順当な姿かなというように思っているわけなのです。

ところが、蒲郡市で手をつけられそうな案件というのも、実はあると思うのです。例えば、もう1点伺いましたが、竹谷柏原線、これは、私の試算ではそんなに多くの金額がかからないというように思っていて、同じ議会の尾崎委員にも聞くと、やはり同じようにそんなにお金はかからないよという話なのです。

そうであるなら、こういった重要で浜町の企業用地に直結するような道路、これは市でやってもいいのではないのかなというように思って、こうして質問させていただいたわけなのです。答弁は求めません。こういったこともお考えくださいということです。そうしたやり方があるのではないかなということです。今後の参考にしていただければと思います。

この話をやっていますと時間が無くなりますので、次に移らせていただきます。

(3)として、小中学校、公民館、保育園グランドデザインの現実的な対応についてお尋ねいたします。

まず、予算大綱において、地区のワークショップを再開するとありました。施設類型ごとのグランドデザインの策定が進んでいると思っておりますが、来年度、ワークショップはどのように進めるのか、お願いいたします。

◎平野敦義総務部長 中学校区単位に実施しているまちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップについては、令和元年度に蒲郡北地区（中部中学校区）で実施していましたが、教育委員会が小中学校規模適正化方針を策定することとなったために、実施スケジュールを変更いたしております。

小中学校規模適正化方針は今年度中に策定されることから、蒲郡北地区のワークショップは、来年度再開をする予定です。

蒲郡北地区を含めて、今後実施するワークショップでは、施設類型ごとのグランドデザインを説明させていただいた上で、たたき台となる再配置プラン案をお示しし、地区の皆様からご意見を伺うことになると考えています。たたき台となる再配置プラン案は、施設類型ごとのグランドデザインに沿って作成することになると考えております。グランドデザインで示される視点を基に、複数のプランをお示しして、議論を進めていきたいと考えています。

◆新実祥悟議員 ただいま、今後のワークショップは施設類型ごとのグランドデザインを説明した上で進めるというお話でした。では、今までのワークショップを実施してきた地区についてはどのようにしていくのか、お願いいたします。

◎平野敦義総務部長 ワークショップにつきましては、地区の皆様から御意見を伺う場として実施しております。ワークショップを終えた地区では、施設類型ごとのグランドデザインの策定により、再度御意見を伺う必要があるか、検討を行います。その上で、これらの地区でどのような対応をするか決定したいと考えております。

◆新実祥悟議員 それでは、具体的にイとして塩津と西浦の地区ワークショップ結果の取扱いについてお尋ねしようと思っております。

この2地区について、今後どのように進めていくのかお答えください。

◎平野敦義総務部長 塩津地区と西浦地区については、地区個別計画を策定したのち、機能が集合する施設の建物配置や管理運営方法などを定める基本計画の策定作業を行っていましたが、小中学校規模適正化方針を策定することになったため、昨年度末に計画案をまとめた段階で作業を止めております。

今後は、地区個別計画やこの基本計画案が施設類型ごとのグランドデザインの考えに沿っているか確認を行い、問題が発生しないと判断できれば、できるだけ早いタイミングで基本計画を正式に決定、公表していきたいと考えております。

◆新実祥悟議員 基本計画をできるだけ早く公表したいということですが、実際に工事に取りかかるのはいつになるのかということをお尋ねしたいのです。

というのは、やはり地元としては、いつできるのだ、本当に使いづらいのをずっと使いづらいまま使っているというような思いをしている方もたくさんいらっしゃるということです、ここがいつなのかということをお答えいただくと嬉しいなと思うのですが、いかがでしょうか。

◎平野敦義総務部長 今のところ、工事の着工時期や工事期間については、決まったものはございません。いずれの地区におきましても、現在の小学校の敷地で学校活動を行いながら建替工事を進めていくこととなります。そのため、工事着工時期や工事期間については学習環境に十分配慮した上で調整をしていきたいというように考えております。

工事の着工までには、国からの補助を受けるための調査や協議、実施設計が必要となってきます。また、整備する施設は、地区の公共施設が集まり、地区の拠点として機能していく施設になりますので、施設の活用方法などについて、地元とも連携して協議、調整を行った上で実施設計に移行する予定でございます。

工事の順番でございますが、塩津地区の基本計画案では、学校体育館と公民館が合築される建物から着手し、学校校舎、保育園の整備の順に工事を進める予定となっております。また、西浦地区の基本計画案では、学校校舎を整備した後に、学校体育館と公民館が合築される建物の工事を進める予定というようになっております。

地元からは早期整備について御要望をいただいておりますので、なるべく早く工事に着手できるよう、こうした確認作業や手続を早急に進めてまいりたいというように考えております。

◆新実祥悟議員 いつという御答弁はありませんでしたが、手順的なものは少し見せていただいたかなと思っておりまして、大変ありがたいと思います。この件に関して、塩津地区の総代の代表の方が市長のところにお話を伺って、またお話しされて要望したいと改めてそのように申しておりますので、またしっかりと対応していただきたいと思います。お願いします。

では、次（４）として立地適正化計画の運用についてお願いいたします。

まず、アとして居住誘導、施設誘導の具体策についてです。

蒲郡市立地適正化計画が策定されて1年以上が経過しております。計画に基づく施策の実施状況についてお尋ねいたします。

◎宮瀬光博都市開発部長 令和元年7月に策定いたしました蒲郡市立地適正化計画においては、人口減少・少子高齢化の進行などによる社会情勢の変化に対して、持続可能なまちづくりを目的として、中心拠点である蒲郡駅、そして地域拠点である各駅を中心にして、居住を誘導する居住誘導区域、医療・福祉・子育て・商業などの都市機能施設を誘導する都市機能誘導区域をそれぞれ設定し、区域ごとに様々な誘導施策を位置づけて事業を進めています。

居住誘導区域における誘導施策として、市民福祉サービスに係る施策、土地区画整理事業や公園整備事業のような公共施設整備に係る施策、住宅施策などの施策を位置づけると

ともに、今後検討していく誘導施策として、低未利用地の活用促進、用途地域の見直し、都市公園の長寿命化などを挙げております。現在、施設の老朽化している都市公園について、令和2年度予算で公園長寿命化計画の策定を進めています。

都市機能誘導区域においても、商業・サービス業に係る施策、公共施設整備に係る施策などを誘導施策として位置づけていますが、現在、土地利用の共同化・高度化等に係る施策である優良建築物等整備事業を進めております。この事業は、都市機能を誘導するとともに良好な住環境の確保を目的としているものですが、中心拠点である蒲郡駅北地区において、民間事業者と令和3年度以降の事業実施に向けた準備を進めています。なお、この優良建築物等整備事業の詳細につきましては、3月定例会の経済委員会にて御報告する予定でございます。

以上です。

◆新実祥悟議員 経済委員会の中で御報告いただけるという、そういう案件が入っているということで、その際にしっかりとお尋ねしたいというように思います。単にこういった計画を立てただけではないよということなのですね。既に補助なり何なりの形で進んでいますと、そういう御答弁だったと思います。

そういう中でお尋ねしたいのが、低未利用地の活用促進というのを挙げられたと思うのですが、具体的に、まず低未利用地というのはどういった土地なのかをお願いします。

◎宮瀬光博都市開発部長 一般に、市街化区域内にある利用の図られていない土地、いわゆる空き地のことを指すものとお考えください。

居住誘導区域内における低未利用地について例示をいたしますと、荒地や耕作地などの宅地化が見込まれる土地となります。

以上です。

◆新実祥悟議員 それを伺って、次の質問に移らせていただきます。

イとして区域内で組合施行の区画整理案件が持ち上がった場合の対応についてお尋ねしようと思っております。例えば、低未利用地の活用施策として、本当にその土地の所有者が組合というのを形成して、それで有効利用するために区画整理をやってこうというような案件が、これまでも形原、羽栗池東でもあったというように思うのですが、これと同じような形で土地の有効利用をしていこうといった案件が出てきた場合に、市から何らかの支援というのは考えられるかどうか、それをお願いします。

◎宮瀬光博都市開発部長 低未利用地の活用促進は、市にとって重要な課題であると認識しております。

例示いただきましたが、組合施行による土地区画整理事業は、居住誘導区域の低未利用地の活用促進につながるものとなりますので、市といたしましても望ましいことであると考えております。組合施行による土地区画整理事業への支援につきましては、蒲郡市土地区画整理事業助成要綱に基づく助成ができることになっております。しかしながら、現在

把握している居住誘導区域内の低未利用地の中には面積が狭小なものもあり、要綱の基準に適合しないものについては助成の対象とはなりません。

蒲郡市内におきましては、過去に4地区で組合施行による土地区画整理事業が施行されてまいりましたが、市にとって必要な公共施設を市が直接整備したという事例もございます。したがって、居住誘導区域の低未利用地において、組合施行による土地区画整理事業の提案があった場合、要綱に適合しないものにつきましても、必要に応じて市が公共施設の一部を直接整備し、施設整備費の軽減を図ることで事業実現の可能性を高める支援を行う方向で考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 ぜひ、それをお願いしたいと思います。居住誘導地域の設定に当たっては、駅から何キロメートルという円を描いて、もちろん市街化区域の中でそういったものを設定していただいたというように聞いております。その観点から見ますと、例えば西蒲の駅から円を描いても、鹿島駅から形原駅から円を描いてもなかなかそんなに大きな土地というのは残ってないというように思います。残っていても規定に外れるような案件ばかりだというように承知しているわけなのですが、そうしたものをぜひ有効に活用できるように、何らかの対策をお願いしたいなというように思います。ありがとうございます。

では、次にお尋ねしますが、(5)として東港地区の開発についてお願いいたします。

まず、先ほども御答弁がありました。三河港港湾計画への位置づけということですが、具体的にこの位置づけに向けてはどのように取り組んでいるのか伺います。

◎鈴木伸尚建設部長 三河港港湾計画の改訂は港湾管理者である愛知県が行うものですが、東港地区まちづくりビジョンは、愛知県に対して港湾計画の改訂へ内容を反映していただくことも考慮して策定しております。具体的には、まちづくりビジョンの中で、将来イメージや想定される土地利用を示すなどして、港湾計画の改訂につながるようまちづくりビジョンを取りまとめていきたいと考えております。

また、愛知県とは、港湾計画をどのように改訂すると東港地区のまちづくりに生かしていけるかといった相談もさせていただいております。

また、まちづくりビジョンを策定するに当たり、蒲郡市東港地区まちづくりビジョン策定委員会を設置しており、その委員には、港湾計画の検討に関わってみえる大学教授、中部地方整備局の三河港湾事務所長、愛知県の港湾課長、三河港務所長にも加わっていただいております。東港地区まちづくりビジョン策定委員会の場で、その方々に直接、東港地区のまちづくりの必要性も御理解いただけるよう説明させていただいております。

また、港湾計画の検討の場でも東港地区のまちづくりについて取り上げられておりますので、今後も引き続き、蒲郡市の方針などを示していきたいと考えております。

◆新実祥悟議員 では次に、この東港地区の開発ですが、これを進めていくに当たって、令和3年度はどのような取組をしていくのかお尋ねいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 今年度に引き続き、令和3年8月末頃の策定に向けて、東港地区まちづくりビジョン策定事業を進めてまいります。

また、今後、民間事業者と対話をしながら埋立地の土地利用計画を検討する際や、市街化区域編入手続の必要書類を作成する際などに、土地の詳細な資料を整備しておく必要がございます。

このため、竹島ふ頭から竹島ベイパークにかけての土地の詳細な地形図、水路などの埋設物の位置、愛知県と蒲郡市の土地所有区分、これらについて測量及び資料整理を行い、今後のまちづくりの検討や各種手続に必要な資料作成のための業務を実施していきたいと考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 そういう中で、最後にお尋ねしたいのは、竹島水族館と竹島ぱるくがある土地についてです。

ここを1つのエリアとして見ているそうなのですが、竹島水族館は耐震工事を実施しているものの、竹島ぱるくは建設から約60年が経過しており、建物の老朽化が著しく、景観的にもイメージがよくないというように思います。

今後開発を進めていく中では、これらの土地をどのように活用していったほうがよいのか、どのようにお考えなのかを伺います。

◎鈴木伸尚建設部長 竹島水族館と竹島ぱるくがある土地は、東港地区の海辺のみならずエリアから竹島周辺エリアへつながる主要な動線上となるものであり、非常に条件のよい価値のある土地であると考えております。

これらの土地は市の所有となっておりますので、官民対話による事業推進も検討しながら、将来的には、周辺の土地利用との連続性を踏まえた現実的で有効な土地利用計画を今後の取組みの中で検討していきたいと考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 ありがとうございます。積極的に民間の方の力もお借りしながらまちづくりを進めていきたいという、ある意味、これまでも必要だったということは分かっているながらも、これまで以上に積極的にお考えになってくださっているということを御答弁の中で実感いたしました。

こういった前向きな政策というものを立てていくのもまちづくりには重要だとは思いますが、当然ですが、対策もやはりしなければいけないというようなものもありまして、その一番大きな案件だというように思っておりますが、(6)としてラグーナテンボスについてお尋ねします。

まず、これはもう1問だけですけれども、ラグーナテンボスの直近の決算状況及び今季の収支予想事業計画についてお尋ねすると同時に、ラグーナ蒲郡運営事業交付金というのは今後も予定どおり継続して交付するかどうか、お願いいたします。

◎飯島伸幸企画部長 ラグーナテンボスの決算状況について、直近第7期、令和2年9月30日決算よりお答えします。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和2年2月末から5月下旬の期間において休業した影響により、主力となるラグナシア事業をはじめ各施設の利用者が減少したため、売上高は前年と比較し大きく減少いたしました。

売上高は22億2,900万円、前年比50.9%であり、営業損益は11億5,900万円の赤字となっております。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により悪化した財務体質の改善を図り、営業黒字を実現する目的のため、タルゴラグーナ、ホテルラグーナヒル、ラグーナの湯を運営するタラソ事業を令和2年12月に株式会社リゾートトラストへ売却しております。

続きまして、第8期事業計画についてお答えいたします。

ラグナシアで62万人、ラグーナテンボス運営事業全体で280万人の来場者数を見込んでおります。新たな取組として、アスレチックパークである「変な森」や、期間限定イベントとして、大ヒットアニメ「鬼滅の刃」とのコラボレーションイベントを実施していきます。また地域との協働したイベントを増やしていく予定と聞いております。

新たな取組を増やしつつ、遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインに沿った対策を取りつつ、業績回復を目指す事業計画となっております。今期の収益予測といたしましては、売上高は37億2,100万円、営業利益は3,200万円を見込んでおります。

また、ラグーナ蒲郡運営事業交付金については、平成26年度より累計18億6,420万円を交付しております。交付限度は30億円となっております。ラグーナ蒲郡地区は蒲郡市の重要な観光拠点であるとともに、市のまちづくりに必要不可欠な存在であることを踏まえ、観光振興及び雇用の促進を図ることを目的として継続してまいります。

以上です。

◆新実祥悟議員 ありがとうございます。

ラグーナテンボス、基本的には民間事業ですので、民間の方がまずは頑張ってくださいということになるかと思えます。ただ、これまでのいきさつ上、民間だからといって突き放してしまうというわけにはいかないというように思います。

また、蒲郡市の観光施策といったものを展開するに当たっても非常に重要な1つの施設だというように捉えておりますし、そのことは当然、当局の方も捉えられているというように思っております。今後とも、しっかりと話ししていただきながら支えていっていただければというように思います。

もう1点、これは御答弁を頂きませんが、ラグーナがラグーナの中だけの事業ということではなくて、蒲郡市全体を利用したような、そうしたイベントを作っていたらいいような、何かそういう御提案を頂けないかなというように思うのです。

令和3年3月定例会

代表質問

例えば、三谷の竹内議員などが、今、非常に強く求めているのが、ラグーナテンボスが三河大島をうまく利用してくれたらいいなというようなお話なのです。以前、あそこに船が、何という船でしたか、あったのですけれども、それで三河大島のほうに回ってもらったらいいなとか、恐竜の島にしてくれたらいいなとか、宝島にしてくれたらいいなとか、そういう話をしながら、あそこに前のラグーナの巽社長が三河大島に渡って見ていただいたというような経緯もありまして、そういった使い方というのもまた提案していただければというように思います。

もちろん、三河大島だけではないです。西浦から形原も含めて十分使えるというように思いますので、お願いしたいと思います。

それと、今回、予算大綱というところで、まちづくりに限定して取り上げさせていただきました。この理由は、やはりまちづくりというのが今後の蒲郡市にとっても非常にベースとなるものであるということで、将来目標、2060年に6万1,000人の確保ということをおっしゃっておられますが、それを確保していくためにも、しっかりとこのところはやっておいていただきたいなというように思います。私の人生で行きますとそこまでは持ちませんけれども、そういったことは将来世代のためにきちんと作っておいてあげたいなというように思います。

それと、国では、菅総理が自助・共助・公助と、このように言うておりますが、これは国民の皆さんに向かって言うているだけではなくて、地方自治体に対しても言うているのだらうなというように受け止めています。国の借金が2,000兆円を超えている、こういった状況の中で、何でも国にやって、県にやってというのはなかなか難しいというように思っております。市がよりよくなるための施策については、市でも手が届きそうであるなら市でやるという、そういった考え方の変更というのも必要ではないのかなというように思います。そういったことで、今回、まちづくり1本に集中させていただきました。ぜひお考えいただければと思います。

それでは、これで蒲郡市政クラブの代表質問を閉じさせていただきます。ありがとうございました。